2026年10月21日
T.Kobayashi

佐倉市の地名の歴史・由来を探る
その 1：佐倉市中部の地名

佐倉市中部の内、東側は佐倉城の城下町が中心になるが、鹿島川を越えて西側は臼井や志津の高台や丘のような地形になっており、各所に山城の跡が残っている。また一部の地域は印旛沼に面しており、干拓で生まれた所もある。様々な表情の佐倉が混ざり合う地域と言える。

●畔田（あぜた）：https://yahoo.jp/9TBvUc
四街道市との境界近くにある。地名の由来は不明だが、水田地帯を意味する地名だと思う。
1945年に陸軍演習場から解放された後、畔田の南部に畔田台開拓組合が編成されて、農地開拓が進められた。この組合は、農林省の斡旋により、酪農を中心とした共同経営を進めた。畔田は千代田村に属していたが、昭和32年に佐倉市に編入され、畔田台は隣接する四街道市大日になった。

●飯重（いいじゅう）：https://yahoo.jp/sXZ2KT
室町時代から戦国時代にかけて、本佐倉城の支城（飯重城）があったことがわかっているが、城の詳細は分かっていない。大宮神社の南側に飯重城があったという情報を見つけた。
台地全体の景観としては、東端に城があり、その東側に農地が広がっていたようだ。
畔田と同様に、印旛郡千代田村に属していたが、昭和32年に佐倉市に編入された。

●臼井（うすい）：https://yahoo.jp/8SPTNg
印旛沼に注ぐ川の流域に臼井郷・臼井荘があった。のちにこの地を拠点とする武士が臼井氏を名乗った。千葉氏の系図を見ると、千葉常胤の孫である千葉胤時の子が初代臼井氏（臼井胤定）を名乗ったようである。
つまり人名より先に地名が存在していたことになるが、地名の起源・由来は不明。
明治22年に、臼井村・臼井田町・臼井台町・角来村・江原村・江原新田村が合併して印旛郡臼井村となった。そして昭和29年に、佐倉町・志津村・弥富村・根郷村・和田村・臼井村が合併して佐倉市が起立した。

●裏新町（うらしんまち）：https://yahoo.jp/WQc9Hq
佐倉城の城下の町並に「新町」があり、その一本裏側（南側）に裏新町がある。

●江原（えばら）：https://yahoo.jp/6UbxUQ
印旛郡江原村と言われていた。鹿島川と手繰川に挟まれた臼井の台地の東端に位置する。

●江原新田（えばらしんでん）：https://yahoo.jp/TBNkRd
江原の南側に位置し、土井氏が佐倉城に入った時代に新田開発された地域。
佐倉城下の拡張に伴い、鏑木地区（大手門広小路あたり）の住民の一部が強制移転となり、この新田に移った。

●江原台（えばらだい）：https://yahoo.jp/Sze333
江原の西側で北に鹿島川の河口がある。佐倉藩の公設処刑場があった。
蘭医学研究のため、刑死者の解剖が行われていた。

●王子台（おうじだい）：https://yahoo.jp/rtadCn
旧地名は佐倉市臼井田だった。現在の王子台三丁目に、忍台城（おしのだいじょう）という砦

のような城があり、別名を「王子台砦」と言ったらしい。千葉氏の末期の内紛の頃に造られたものではないかと言われている。
「忍台」が転じて王子台になったというのが地名の由来と思われる。

●大蛇町（おおじゃまち）：https://yahoo.jp/vCDZTj
蛇と関係する伝承はない。「大きな」＋「斜面」または、「おお!」＋「斜面」が語源で、土石流が多かったことに由来するという説が見つかったが、真説かどうかは不明。
佐倉城がある小山のような海抜30m 前後の台地の東側斜面に位置する。

●生谷（おぶかい）：https://yahoo.jp/x2EbdP
手繰川中流の東岸の斜面にある。旧印旛郡千代田村の字地名だったが、昭和32年に佐倉市に編入された。
「おぶ（生）」は湧水のある潤った状態を意味するので、谷津の地形を意味していると言える。

●表町（おもてちょう）：https://yahoo.jp/rqaRhEw
城のある山（鹿島山）の南麓、高崎川南岸の低地で、JR 佐倉駅前の平地。
城下町の「表」を意味するのだろうか？

●海隣寺町（かいりんじまち）：https://yahoo.jp/XHbZeA
時宗千葉山深広院海隣寺があることで町の名となった。治承3年千葉常胤が海辺で月見をしていたら、海中に光り輝く二体の阿弥陀如来像を発見。持ち帰り、阿弥陀寺を建てて安置した。のちに千葉一族の内紛が起きた時、千葉親胤によって内一体が佐倉の当麻無量光寺の末寺に持ち込まれた。親胤は、馬加康胤から数えて七代目になる。その後阿弥陀寺は廃寺になり、残った一帯は寶幢寺（ほうどうじ：幕張に現存）に受け継がれた。
親胤によって持ち込まれた佐倉の寺を海隣寺と名付けたことで、海隣寺町いう地名が誕生。

●鏑木仲田町（かぶらぎなかたまち）：https://yahoo.jp/ueqx5Y
下総國鏑木村のうち、高崎川に面した水田地帯だった所か。現在は印旛合同庁舎がある。

●鏑木町（かぶらぎまち）：https://yahoo.jp/p4U8h9
昔は下総國鏑木村と言った。千葉常胤の孫である千葉胤時の子が臼井氏（臼井胤定）を名乗り、その孫が鏑木氏の始祖となり、鏑木氏は代々続いている。
この鏑木氏と関係すると考えられる。

●上志津（かみしづ）：https://yahoo.jp/qraUNp
鎌倉時代に、千葉氏の家臣志津史郎平胤がこの地に城を構えて志津氏を名乗った。
上志津村・下志津村があり、明治22年の町村制施行により、志津村が起立し、上志津・下志津は字地名になり、佐倉市になった時に市を構成する「町」になった。

●上志津原（かみしづはら）：https://yahoo.jp/wuzywB
明治時代から陸軍の演習場の一部だったが、終戦後農地として開拓され、多くの人が入植した。陸軍関係の組織が中心となって編成された開拓組合が多い中で、上志津原は一般入植者によるものだったようで、開拓地組合が町の名になった。

●上代（かみだい）：https://yahoo.jp/UU_pFJ
元は上代村だった。平安時代末期の資料に村名の記述があるが、地名の由来はわからない。
高崎川北岸の台地なので、「上台」が変形したのかもしれない。

●栄町（さかえちょう）：https://yahoo.jp/UAG-Xu
大正15年に開業した京成佐倉駅が、昭和37年に北側に100m ほど移転し、跡地が区画整理されて商店街や住宅地ができた。生まれた町の繁栄を願って、（千葉駅前の栄町を見習っ

て）栄町と名付けた。

●下志津（しもしづ）：https://yahoo.jp/u5HyBZ

旧下志津村。小竹川の支流の水源になっている海抜30m 弱の台地。台地南部の木戸場に佐倉藩の砲術練習所が設置された。のちに下総の台地に陸軍の演習場ができるのと並行して、陸軍砲兵射的学校に発展して軍都千葉・軍都佐倉の中枢を担った。

●下志津原（しもしづはら）：https://yahoo.jp/ZsGEJR

下志津の南側に位置して、現在は四街道市との市境になっている。陸軍関係の諸施設があった場所は、戦後下志津原開拓団が編成されて農地開拓が行われた。この地域は現在は、佐倉市と四街道市に分かれてしまった。

●樹木町（じゅもくちょう）：https://yahoo.jp/vAC-Pu7

城下町の東端に近い所で、弥勒町の北側の路地裏にある 100m四方ほどの小さな町。
何か意味がありそうな町名なので調べてみたが、由来はわからなかった。

●城内町（じょうないちょう）：https://yahoo.jp/PoYkpH

佐倉城の城内だった所。

●白銀（しろがね）：https://yahoo.jp/NVE9gF

印旛郡大蛇町字白銀谷津と言われていた。高崎川の北側の台地で、佐倉城がある鹿島山の東南端の谷津地形を利した農業地帯だった。宅地開発により住宅団地となった。

●新臼井田（しんうすいだ）：https://yahoo.jp/wVARXAZ

京成臼井駅の東方に開発された住宅地で、京成本線の南側の海抜16m ほどの台地の上にある。台地の北側は海抜 4～5mの水田地帯の「臼井田」（昔は沼の中か?）、その先に「臼井田干拓」があり、さらにその北側に印旛沼がある。印旛沼干拓の歴史を感じる。

●新町（しんまち）：https://yahoo.jp/SSHgvp

佐倉城の城下町。田町・新町・弥勒町・本町・本佐倉・酒々井町は佐倉六丁と言って町奉行の支配下に置かれた。これらの町は一本の街道で結ばれて、新町は整然とした区画の家並みで、商工業に従事する者が住みついていた。

●千成（せんなり）：https://yahoo.jp/6APMWR

昭和42年に成田屋工務店によって宅地開発されてできた町。（千成団地）
豊臣秀吉の馬印「千成瓢箪」にあやかり命名された「千成ニュータウン」から町名ができた。

●染井野（そめいの）：https://yahoo.jp/NWzni4

小字地名「染井」地区と「間野」地区にまたがる農地・山林を、宅地として開発し（大林組・東急不動産）、旧地名を合成して「染井野」という新地名を産み出した。
間野という地名は消えてしまったが、王子台に間野台小学校、間野バス停として残っている。

●高岡（たかおか）：https://yahoo.jp/tbhcV6

千葉氏家臣の木内薩摩守の居城（高岡城）があった。弥勒町・野狐台町の南側で高崎川の北岸。海抜10m ほどの高台に城があった。

●田町（たまち）：https://yahoo.jp/ncZafq

佐倉城の北側から東側にかけた一帯を田町と言う。低地で川の流れもあり、地名から想像すると、水田地帯だったのかもしれない。

●寺崎（てらざき）：https://yahoo.jp/9AnSo2

一般的に、岬や尾根の終端など高所の先端の場所に「XX 崎」という地名が存在する例が多い。佐倉では、寺崎・寺崎北・大崎などは、高崎川と鹿島川の合流地点の南側の台地先端に

位置する。千葉氏の末期に、千葉城を追われた千葉胤直の嫡子胤将が、寺崎に城を構えて居城した。寺崎城があったとされる場所には現在は真言宗豊山派密蔵院がある。
胤将は、のちに馬加康胤の嫡子胤持に追われてこの地を後にし、胤持が本佐倉城へ移るまでの間居城としていた。

●寺崎北（てらざききた）：https://yahoo.jp/vmmMun
上記参照

●長熊（ながくま）：https://yahoo.jp/YbJic5
和名抄に「印旛郡長隈郷」の表記があり、古代から存在する地名であることがわかる。
高崎川に東酒々井方面からの支流が合流する地点で、小さな台地の終端になる所。
「くま」は山裾の傾斜地の地名に多く見られる。のちに長熊村となり、佐倉市に統合された。

●中志津（なかしづ）：https://yahoo.jp/wV2tNc
元は上志津だったが、角栄団地などの宅地開発によって生まれた町。
昭和52年に住民投票により、中志津Ｘ丁目という地番が誕生した。

●中尾余町（なかびょうまち）：https://yahoo.jp/nMhjzi
佐倉城の城外の侍屋敷があった所。千葉市・四街道市・佐倉市・八街市・酒々井町の字地名または、昔の字地名に「XX 尾余」が散見する。角川地名辞典で調べてみたら「尾余」は、丘陵性台地の鞍部のような所に付く地名ということがわかった。
千葉県（北総）に集中している地名の背景・理由はわからなかった。

●鍋山町（なべやままち）：https://yahoo.jp/7X_DRx
佐倉城がある海抜 30m前後の小山の中の北端の小さな突起で、県立佐倉高校がある。
おそらく「鍋の形をした山」ということだろうと思う。

●並木町（なみきまち）：https://yahoo.jp/zEcngv
佐倉城の東側に位置し、武家屋敷があった所。「並木」という地名の由来は見つからなかったが、佐倉城下の街に入る道なので、並木があったのかもしれない。

●西志津（にししづ）：https://yahoo.jp/y5yCdH
佐倉市の西端で、八千代市勝田台団地と隣接している。
昭和50年代から平成にかけて宅地開発が進められて、学校や幼稚園などが新規に開校した新しい街。

●羽鳥（はどり）：https://yahoo.jp/VULYjN
鹿島川西岸の尾根の北端になる所。印旛郡羽鳥村と言われていたが、明治22年に畔田村・飯重村などと合併して印旛郡千代田村となった。昭和32年に佐倉市に編入された。
一般的には「機織り」が変形して「はとり→羽鳥」となったケースが多いらしいが、「はどり」という読みからすると、しっくりしない。

●藤沢町（ふじさわまち）：https://yahoo.jp/NnsNYT
堀田氏支配の時代の佐倉城の城下で、江戸詰めの武家が佐倉へ引き上げた折、本町の東端を武家の屋敷町として整備し、「城外藤沢」と呼んだ。その名残で藤沢町という地名が生まれた。「城外藤沢」と名が付いた理由は、堀田正亮の代で１１万石の大名となり、相模の國の海老名・綾瀬・藤沢なども所領していたことと関係していると考えられる。

●将門町（まさかどまち）：https://yahoo.jp/ugP27L
城のある山の北東端にある。平将門の父である良将の領地・居館があったとされている。
将門口ノ宮神社は平将門を祀っており、のちに佐倉藩主堀田正信が佐倉惣五郎の霊も合祀

した。
町の北側にある大佐倉八幡神社は、創建時期は不明だが大同元年（856年）に鎮座。主祭神は誉田別命（ほんだわけのみこと：のちの応神天皇）

●南ユーカリが丘（みなみゆうかりがおか）：https://yahoo.jp/PdyEvp
ユーカリが丘の項参照

●宮小路町（みやこうじまち）：https://yahoo.jp/S5evVR
城下の武家屋敷の町。麻賀多神社があったことから宮小路の名がついたらしい。

●弥勒町（みろくまち）：https://yahoo.jp/7XAtfh
佐倉城の城下町で、様々な生業が並ぶ繁華街にあった町。遊郭があったという情報もある。一般的には、神仏から授かる恵みや主君から授かる俸給を「禄」と言い、「美禄」は酒を表す言葉でもあったので、遊郭の存在とも関係するものかもしれない。

●最上町（もがみまち）：https://yahoo.jp/n3atks
町の名の由来としての情報は見つからなかったが、史実を調べて行くと、山形県北部を抑えていた最上義光と配下の鮭延氏の間の家督相続にからむいざこざが原因で、最上氏が佐倉藩の土井氏預かりとなったという事件が見つかった。佐倉藩預かりとなった最上氏の屋敷がここにあった、というような筋書きが考えられる。

●本町（もとまち）：https://yahoo.jp/5TUz67
城下町の中でも商いや人の往来の多い、賑わいの場所だった。佐倉城ができる前から、成田街道の宿場町・商人町として栄えていた。

●野狐台町（やっこだいまち）：https://yahoo.jp/XcrdrK
鏑木村と大蛇村の入会地だったが、寛文年間に佐倉城外の足軽屋敷になった。足軽、つまり「奴（やっこ）」が当て字で転じて「野狐」となったと言われている。

●吉見（よしみ）：https://yahoo.jp/6DjWWh
地名の由来はよくわからないが、佐倉藩の家臣の名簿に吉見の名前が見つかったので、武蔵の吉見氏の系列の武家が堀田氏に繋がってこの地に関係していたのかもしれない。
吉見村は明治22年に他村とともに印旛郡千代田村になり、昭和32年に佐倉市に編入。

以上

＊関連資料　佐倉市の地名の歴史・由来を探る その 2：佐倉市北部の地名
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/sakura02.pdf
佐倉市の地名の歴史・由来を探る その 3：佐倉市南部の地名
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/sakura03.pdf
佐倉の町はこんな町 ＜佐倉市はこうして生まれた＞
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/sakura00.pdf